

自治体主導のソーシング及び発電事業者公募、太陽光発電設備導入による農業振興を図る

宮城県 七ヶ宿町 <基本計画作成日：平成27年5月22日>

再エネ発電事業概要

- 事業実施主体：合同会社クリスタル・クリア・エナジー（シャープ（株）とリース会社との合同出資会社）
- 発電設備：太陽光発電
発電出力 13.9MW
設備整備区域面積 38.2ha（農地転用面積を含む）
- 建設費：39.2億円
- 設備整備計画：平成28年3月31日認定
- 運転開始時期：平成30年10月（予定）

経済効果

ポイント①

公募

ポイント④

地域貢献度の大きい事業者

太陽光発電
(13.9MW)

収入1：売電収入

売電収入の約4%を基金へ還元
(20年間で4億円を想定)

収入2：固定資産税

収入3：地代

基金

行政

ポイント③

七ヶ宿町

- 農林漁業の健全な発展に資する取組
 - 畜産農家への支援
 - 農業指導員の営農指導
 - 施設園芸での作物栽培 等

- 暮らし対策
- 人材育成
- 他産業支援 等

協議会の構成員及び期待される役割

- 協議会の主宰
- 基本計画の作成と実施の責任主体
- 発電事業者の公募

- 発電設備が居住地域に整備される場合、自然環境、生活環境等への影響を踏まえたものとなるよう意見の表明

- 地域貢献策等を検討

- 発電事業に関する知見の提供

- 関係住民
 - 横川地区（代表者）
- その他
 - 七ヶ宿町商工会
 - 東北電力株式会社

- 農林漁業者
 - 七ヶ宿町酪農組合
 - 大原用水路組合
 - 七ヶ宿町森林組合
 - 七ヶ宿町認定農業者連絡協議会

- 設備整備者（※）
 - シャープ株式会社

- 発電設備の整備計画
- 事業計画や「農林漁業の健全な発展に資する取組」の内容説明
- 「農林漁業の健全な発展に資する取組」への知見の提供や協働

※第4回協議会より参加

取り組むに当たっての工夫

ポイント①

地域貢献に意欲的な事業者を探す工夫

- 七ヶ宿町での太陽光発電事業に関心を示している発電事業者が複数いたため、公募を行い、地域還元のアイディアを競わせることで、より地域貢献度の大きい事業者を選定することができた。また、事業者を公募することで、業者選定の内容や理由が明らかとなり、地域関係者の理解も得やすくなった。

ポイント②

農林漁業の発展のための財源を確保する工夫

- 基金創設で農林漁業の発展のための財源を確保できた。

首長の声：基金のおかげで行政サービスの充実ができる。

首長の声：基金による新規就農支援で長期間の若者雇用対策が可能となり、定住につながる。

ポイント③

今後の農業に対する取組を充実

- 今回の太陽光発電事業により、畜産施設がなくなることに伴い、基金を畜産振興のために活用するとともに、ほ場整備や施設園芸への支援等、農業への支援策を充実させる予定。

ポイント④

発電事業者への安心感を付与する工夫

- 町が主導して、あらかじめ地域関係者から再エネ導入についての合意が得られた地域を設備整備区域として設定することにより、円滑な事業実施ができる。
- 町に選ばれたことで、事業実施の信頼性を向上させるとともに、地域関係者との協議を円滑に進みやすくさせる。

市町村の取組の経緯

- 平成26年9月 町営牧場の近年の牧場経営の実情や荒廃状況を整理し、牧場利用者である町内畜産農家の意向を踏まえ太陽光発電設備を整備することとし、協議会を設置。
- 平成27年3月 町が協議会の協議を経て決定した応募要領（場所と目的を規定）を示し、太陽光発電事業者を公募。
- 平成27年3月 地域貢献度が最も大きい事業の企画を提案した事業者を選定。
- 平成27年5月 採択事業者が協議会に加わり、基本計画案を協議した上で、基本計画を策定・公表。

今後の取組・戦略

- 林業振興のため、木質バイオマスの熱利用を導入し、町内の入浴施設や施設園芸で利用することを検討。
- 自然を有効活用してエネルギーを作り、その売電収入の一部を町の施策に活用しているということをPRし、町のイメージアップ。